

# 令和6年度病害虫発生予察注意報第3号

令和6年7月3日  
愛知県

作物名：水稻

病害虫名：イネカメムシ

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生程度 多い（やや早い）
- 3 注意報発表の根拠

- (1) 6月27日に県内水田（主に極早生品種）9地点19ほ場で実施したイネカメムシの臨時調査（本田内20回すくい取り調査）で、複数地点において、出穂前の水田でイネカメムシの発生を確認した。多いところでは69頭捕獲された地点もある（表1）。
- (2) 前年調査（令和5年）による本種の発生量（調査ほ場あたりの平均年間捕獲数）は9.20頭（平成2.22頭、令和4年5.05頭）で、過去10年と比較して最も多く、冬期の気温も高めに推移したことから、越冬数は多いと推測される。
- (3) 6月27日発表の1か月予報では、向こう1か月気温は高いと予想されており、今後も本虫の活動に好適な条件が続くと予測される。

表1 臨時調査においてイネカメムシの発生を確認したほ場での捕獲頭数  
（本田及び畦畔の20回すくい取り調査）

調査ほ場	捕獲頭数		備考
	本田	畦畔	
尾張①	19	0	・ほ場内の一部に発生 ・発生場所における捕獲頭数
尾張②	1	—	
尾張③	36	13	・ほ場内のヒエに集中 ・ヒエのある場所での捕獲頭数
尾張④	0	2	
尾張⑤	39	—	・ほ場内で場所により発生量が異なる
尾張⑥ （参考）	有	—	・見取りで発生を確認（頭数不明）
西三河①	69	0	・ほ場内の一部に発生 ・発生場所における捕獲頭数
西三河②	6	0	・ほ場内で場所により発生量が異なる

6月27日調査（いずれも出穂前の水田）

#### 4 防除上注意すべき事項

(1) イネカメムシは、出穂直後から籾を吸汁し不稔籾を生じさせることから、発生すると減収につながるため、**出穂期に薬剤防除する。**

さらに、出穂期防除の7日から14日後頃（発生が多い場合は7日から10日後）に追加で薬剤防除する。

(2) 出穂とは穂の先端の籾が少しでも顔を出した状態であり、全体の4～5割の茎が出穂した日を出穂期という。ほ場における出穂期の確認は難しいため、生育予測ツール（Agrilook）の活用や、走り穂が見られる頃などを参考に判断する。

(3) イネカメムシに対する薬剤は表2のとおり、水溶剤、液剤、フロアブル剤等が効果的である。

(4) 一部の地域ではエチプロール水和剤（商品名：キラップフロアブル）でイネカメムシに対する感受性が低下している事例が生じていることから、防除薬剤の選定については地域の指導機関等に相談する。

表2 稲のイネカメムシに対する主な防除薬剤

薬剤名	使用時期	本剤の使用回数	IRACコード
スタークル／アルバリン顆粒水溶剤	収穫7日前まで	3回以内	4A
スタークル液剤10			
エクシードフロアブル	収穫7日前まで	3回以内	4C
キラップフロアブル（注）	収穫14日前まで	2回以内	2B

（注）キラップフロアブルは本県一部地域でイネカメムシに対する感受性低下を確認しているため、**感受性低下を確認している地域では使用を控える。（4（4）参照）**

#### 成分ごとの総使用回数に注意する。

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRACコードの詳細は、[https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/mechanism\\_irac03.pdf](https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/mechanism_irac03.pdf)を参照する。

薬剤の使用に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。

#### 5 連絡先

愛知県農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室

電話:0561-41-9513